

A 県庁跡の碑

中之島から切戸町にかけては、天正9(1581)年に池田恒興が築いた兵庫城の天守閣があった場所と伝えられています。明治元(1868)年1月には兵庫鎮台が設けられ、同年5月には兵庫県庁となって初代県令に伊藤博文が就任。その後、県庁は移転し、新川運河の開削によって当時の建物は失われましたが、「兵庫城跡」「最初の兵庫県庁の地」と併記した碑と説明板がキャナルプロムナードに立っています。



B 真光寺

真光寺は、時宗の開祖である一遍が亡くなった場所に建立された寺院です。境内には「一遍上人御廟所」「平清盛公御膳水の井戸」等があり、清盛七弁天のひとつ「音楽弁天」も祀られています。



C 兵庫大仏(能福寺)

能福寺は、日本で最初に創建された天台宗霊場と称していて、伝教大師や平清盛に縁のある寺としても有名です。この大仏の前身は、明治24(1891)年に地元の豪商によって寄進された身丈11メートルの大仏で、日本三大仏の一つと言われています。



D 岡方倶楽部

兵庫津は岡方・北浜・南浜の三方(みかた)に分かれ、それぞれに惣会所があり、名主が出勤して総代や年寄などを指揮し、行政を行っていました。海に面していないのが岡方で、その「岡方惣会所」の跡に昭和2(1927)年兵庫商人の社交場として建立された岡方倶楽部は、戦災にも震災にも耐えた“奇跡の建物”です。平成30(2018)年に国登録有形文化財に選ばれました。



E 松尾稲荷神社

松尾稲荷神社のビリケンさんは一般に広く知られているビリケンさんとは少し違います。米俵の上に座って右手に打出の小槌、左手には宝珠の玉を持ち、背中には大判を背負うという和洋折衷のビリケンです。西出町鎮守稲荷神社には平成17(2005)年に倉庫の奥から発見されたビリケンさんがいます。どちらも戦前に作られたもので、隣町同士の稲荷神社に一体づつビリケンさんがいるなんて全国的にも珍しいことです。



平成30年、兵庫県は成立150周年を迎えました。この節目にあたり、ふるさと兵庫を再認識し、新たな兵庫づくりを考える機会とするため、当該事業を実施します。

兵庫津再発見 ウォークマップ

日本遺産に登録された兵庫津(和田岬~旧湊川)は、古くから日本国内の東西航路や、外国との交易拠点として栄えてきました。

大輪田泊と呼ばれ平清盛が日宋貿易で活躍した平安時代。鎌倉時代には国内第一の港「兵庫津」として発展しました。江戸時代には北前船が出入りする海運の要所に、幕末には外国と貿易を行うための港に指定されました。そして明治時代には最初の兵庫県庁が置かれたところです。そんな兵庫津の様々な名所旧跡や先人たちの夢の跡を巡るタイムスリップをお楽しみください。



2019.2.24 兵庫津日本遺産の会・よみがえる兵庫津連絡協議会 発行

① 新川運河

明治の初期までは兵庫港には適当な船の避難所がなかったため、遭難事故が多く、また和田岬の突端を回って入港するのも不便だったので、神田兵右衛門は兵庫運河の建設を計画しました。工事は明治7(1874)年2月に始まりましたが、難工事のため思うように進まず、明治8(1875)年5月ようやく新川運河の部分だけが完成しました。現在は運河縁に遊歩道「キャナルプロムナード」が整備されています。



② 兵庫運河

兵庫運河は明治29(1896)年から3年間かけ、海難事故が多い和田岬を迂回せずに須磨・駒ヶ林方面と兵庫港を結ぶ水路として掘削されました。高松町・材木町・南逆瀬川町を通して、新川運河に達する本線と東尻池町から北に延びる支線、全長1400間余(約2500m)が開通。現在でも日本最大規模の運河です。最近までは、貯木場として利用されていましたが、遊歩道やレガッタコースなどの整備により親水空間として生まれ変わり、市民の憩いやスポーツの場として利用されています。



③ 清盛塚

大輪田橋のそばに建つ清盛塚は高さ約8.5メートルの十三重の石塔で「弘安9(1286)年2月」の銘が刻まれています。清盛の遺骨が納められているという説がありましたが、大正12年の調査で墳墓ではないことが明らかになりました。石塔の隣に柳原義達氏の作になる平清盛像と、琵琶の名手、平経正(つねまさ)にちなんだ「琵琶塚」碑が建てられています。



④ 北風正造の碑(能福寺)

北風家は代々「荘右衛門」を名乗り、諸荷物問屋として西国・山陰・北海道から物資を集め「兵庫津に北風あり」と有名でした。とりわけ荘右衛門貞幹(1736~1802)は蝦夷地交易の利に着眼し、高田屋嘉兵衛を後援。肥料のニシンしめかす(干鰯)を大量に仕入れました。これによって西日本の農業生産は急速に増えたとされています。幕末に家を継いだ正造貞忠は尊王の志厚く、兵庫津の発展にも貢献しましたが、家は明治20年代に没落。「正造貞忠の碑」だけが能福寺境内に残っています。



⑤ 滝善三郎の碑(能福寺)

慶應4(1868)年1月11日、明治新政府より西宮の警備を命じられた備前藩の一隊が、三宮神社付近で行列を横切ろうとした外国軍水兵を刺傷した事件が「神戸事件」です。折衝の結果、第三砲隊長であった滝善三郎正信が全責任を負い、永福寺(戦災により焼失、その後移転)において切腹しました。同寺に立てられた「滝善三郎供養碑」は能福寺の境内に移され、毎年、地元関係者による供養の集いが開かれています。



⑥ 兵庫城跡

天正8(1580)年、池田恒興が花隈城を落城させ、翌年その石垣などで築いたのが兵庫城です。恒興は兵庫城を中心に城下町を整備し、町の周囲を土塁と堀で囲みました。江戸時代には支配の変遷に伴って、尼崎藩の陣屋、大坂町奉行所の兵庫勤番所が、明治元(1868)年に最初の兵庫県庁がこの地に置かれています。



⑦ 兵庫生簀跡

元禄のころから、兵庫は魚の町で知られ、宿泊客や京・大坂の市場に早船で売り出して好評でした。寛政8(1796)年の『摂津名所絵図』は、魚市のほか南浜の今出在家町にあった『兵庫生簀』を紹介しています。長さ13間、幅4間(約24×7m)ほどで屋根を持ったいけすに鯛、鱧、鱈など多彩な魚が飼われていました。不漁時にはここから活魚を市場に出したり、京の御所にも献上したと伝えられています。



⑧ 来迎寺(築島寺)

平清盛による経ヶ島の築造は暴風大波のために工事が進みませんでした。そこで海神の怒りをなだめるため、17歳の松王丸が申し出て、人柱になったと伝えられています。けなげな松王丸の菩提を弔うために二条天皇の勅命により建立されたといわれている松王丸の供養塔が境内に残っています。



⑨ 石椋(いわくら)

この巨石は昭和27(1952)年の新川運河の浚渫工事の際に出土し、平清盛が築いた経ヶ島の遺材ではないかと考えられていましたが、平成15(2003)年にこの石材が発見された近くで、奈良時代後半から平安時代中頃の港湾施設と考えられる遺構が発見されました。これによりこの巨石は古代の石椋の石材であったと推定されます。



⑩ 札場の辻跡

南仲町の辻は兵庫宿の中心であり、東から入ると西国街道は南仲町から大きく右折していました。ここには高札(町人への法令や、幕府の布達を掲示する札)を掲げる札場があったので、俗に「札の辻」「札場の辻」と呼ばれてました。兵庫の札場はほかに柳原と湊口の東西惣門や島上町の来迎寺(築島寺)前にもありました。



⑪ 柳原惣門跡の碑(柳原蛭子神社)

柳原惣門は、西国街道から兵庫の町に出入りする西の玄関口でした。惣門に入って直ぐの場所にある柳原えびす神社の脇には明治維新まで高札を掲げる札場がありました。



◆ 兵庫津関連年表 ◆

西暦	和暦	できごと
741	天平13	「行基年譜」に大輪田船息の記載。行基による大輪田泊修築。
812	弘仁3	大輪田の修築。
914	延喜14	三善清行が提出した「意見封事十二箇条」において大輪田泊・魚住泊の修築を請う。
947	天曆元	造輪田泊使が定められる。
1173	承安3	平清盛が経ヶ島を築き、大輪田泊に宋船を入港させて貿易を行う。
1180	治承4	平清盛が福原遷都し、5ヶ月後に京へ遷都。
1192	建久3	鎌倉幕府が開かれる。
1196	建久7	東大寺の僧重源、大輪田泊、魚住泊などを修築。
1289	承応2	一遍上人が和田岬の観音堂で没する。
1308	延慶元	東大寺、伏見上皇より港の修築と東大寺修復のため兵庫津に関を設け関銭の徴収を許可される。
1333	元弘3	隠岐島を脱出した後醍醐天皇が福厳寺に滞在中、楠木正成が迎えに来ていた時に、鎌倉幕府が滅びたという知らせが届く。(「太平記」より)
1336	建武3	楠木正成が湊川の戦いで敗れる。
1338	暦応元	興福寺、兵庫南関の関料徴収を幕府より認められる。(南関の成立)
1401	応永8	兵庫津が日明貿易の拠点になる。足利義満が兵庫を訪問し高麗船を見学する。
1445	文安2	『兵庫北関入船納帳』の記録が現存。
1467	応仁元	応仁の乱で兵庫津が焼かれる。
1573	天正元	室町幕府滅亡。
1578	天正6	摂津の守護荒木村重が織田信長に背く。信長勢が花隈城を包囲し兵庫津も攻撃。
1580	天正8	花隈城落城。
1581	天正9	池田恒興、花隈城を破却して兵庫城を築く。 池田父子による兵庫津の支配。都賀之堤などが築かれ城下町の整備がすすむ。
1603	慶長8	江戸幕府が開かれる。
1607	慶長12	朝鮮通信使兵庫津に寄港。(来日12回のうち11回兵庫に寄港)
1617	元和3	戸田氏鉄が尼崎に入封。兵庫津も尼崎藩領とされる。
1686	貞享3	尼崎藩が兵庫に兵庫奉行を置く。
1692	元禄5	水戸光圀が楠木正成碑を湊川に建立する。
1696	元禄9	『摂州八部郡福原庄兵庫津絵図』が作成される。
1769	明和6	兵庫津、明和の上知令により幕府領に編入される。(明和の上知) 陣屋の一部に兵庫勤番所が置かれる。この頃、近世兵庫津の人口がピークをむかえる。
1785	天明5	工楽松右衛門が松右衛門帆を発明する。
1796	寛政8	『摂津名所図会』刊行される。
1824	文政7	高田屋嘉兵衛が西出鎮守稲荷神社に海上安全を祈願して灯籠を奉納する。
1858	安政5	幕府、日米修好通商条約を締結。兵庫の開港が決定する。
1862	文久2	『兵庫津之図』作成される。
1864	元治元	和田岬砲台が完成。勝海舟が神戸海軍操練所を開設(翌年閉鎖)。
1867	慶応3	兵庫(神戸)開港。大政奉還・王政復古。
1868	慶応4	神戸三宮神社前で備前藩兵が外国人を負傷させる。(神戸事件) 明治元
1874	明治7	兵庫城跡に兵庫県庁が置かれるが4ヶ月で移転。初代知事に伊藤博文が任命される。
1876	明治9	兵庫新川運河の工事開始。大阪―神戸間に鉄道開業。
1876	明治9	兵庫新川運河、神田兵右衛門の尽力により完成。
1887	明治20	官営兵庫造船所が川崎造船所に払い下げられる。
1891	明治24	能福寺、地元の豪商たちの寄進により大仏を建立する。
1899	明治32	運河の開削を引く継いだ八尾善四郎、幾多の困難を乗り越えて兵庫運河(本線)を完成。
1901	明治34	湊川付け替えが完成する。
1905	明治38	神戸三菱造船所が開業する。旧湊川跡に新開地が誕生する。

⑫ 工楽松右衛門の墓(八王寺)羽坂通2丁目

高砂から兵庫津に出て来た松右衛門は兵庫の北風家番頭・喜多二平の家に長年住んで、研究を重ねながら独自の船の帆を発明しました。これが「松右衛門帆」で天明(1781~1788)期に瀬戸内から北陸・東北・蝦夷地までの航路で盛んに使われました。彼は他にも港湾工事や土木工用の船、機械などを数多く発明しました。



⑬ 七宮神社

創建の年代は定かではありませんが、一説にはもとは会下山の南麓の集落で、北風家が祀っていたと伝えられます。清盛が経ヶ島築造の工事を進めるにあたり、暴風雨でなかなか進まないのを不審に思い、調べたところ、築造に必要な土砂を取っていた塩樋山に住む神が怒って暴風雨を起こすことがわかり、そこにあった神社を現在の七宮町に移築し祀ったところ、無事築造できたと言われています。



⑭ 湊口惣門の碑(湊八幡神社)

湊口惣門は兵庫津の出入口、西国街道に面していました。ここには番所が置かれ札場がありました。湊口の東は旧湊川で慶応元(1865)年まで橋がなく、雨で水量が増えたと通行止めになり、参勤交代の一行や旅人があふれたといいます。



⑮ 迷子のしるべ石(湊八幡神社)

湊口惣門の付近は人の往来が多く、「迷子のしるべ石」が建てられました。これは迷子の名前や特徴を紙に書いてこの石に張り紙をしておくもので、尋ねる人も見つける人もここへくれば解決する仕組みで、警察制度のない当時は重宝がられていました。



⑯ 鎮守稲荷神社

西出町鎮守稲荷神社の鳥居脇には文政7(1824)年に高田屋嘉兵衛が奉納した一对の石灯籠があります。嘉兵衛は淡路島出身で、寛政4(1792)年に兵庫津に来ました。北風家の後援もあって4年後に1500石積み辰悦丸を造り、北前船交易で巨富を稼いでクナシリやエトロフまで手を広げました。嘉兵衛は西出町に本店を構え、のちに函館の街を発展させました。



⑰ 高田屋嘉兵衛本店の地記念碑

西出町には高田屋の本店があり、佐比江の方まで細長く続いた入江のこの周辺には高田屋の蔵が幾つも立ち並んでいたと古老が伝えています。



⑱ 高田屋嘉兵衛記念館

平成13(2001)年に、地域の歴史資料館として開館しました。高田屋嘉兵衛の資料を始め、神戸みなどの祭のポスター、兵庫津絵図、明治時代の和船ランプ等珍しい資料や作品が展示されています。貴重な兵庫津発掘調査報告書が保存され、見ることができます。紙芝居「高田屋嘉兵衛物語」(要予約)もやっています。

